

身近だけど奥深い「烏龍茶」

烏龍茶ファンは日本人だけではない!?

緑茶、烏龍茶、紅茶など、お茶にはさまざまな種類があります。その違いは栽培方法や摘採時期（収穫する時期）のほか、発酵の方法や度合いにより、それぞれ「不発酵茶」「弱発酵茶」「弱後発酵茶」「半発酵茶」「発酵茶」「後発酵茶」に大きく分類することができます。



なかでも注目したいのが、半発酵茶の代表格として知られる烏龍茶。日本において烏龍茶は、スーパー、コンビニエンスストア、自動販売機など、あらゆる場所で購入することができるほど、馴染

み深く人気の高い中国茶の1つと言えます。また、日本以外でも烏龍茶のファンは多く存在しています。ところが、中国でもっとも生産量が多いのは、不発酵茶である緑茶。なぜ半発酵茶の烏龍茶の人氣は長く続くのでしょうか。

烏龍茶といっても種類も風味もさまざま

長きにわたり烏龍茶が愛されてきた理由の1つは、烏龍茶は産地や品種が多いことが挙げられます。そのため、産地や品種によって発酵度合いが浅めの20%から深めの80%と幅があります。つまり、一口に「烏龍茶」といっても、種類や風味が異なるたくさんのお茶があるということ。そして、その奥深さが、今日も多くのお茶ファンを魅了し続けているのです。

以下に、代表的な台湾烏龍茶を挙げると、発酵が浅く、清々しい香りが魅力の「文山包種茶」。や



明山茶業株式会社 取締役 中国室 張 文 昕

1988年上海より来日。名門中国料理店の勤務を経て現在に至る。生涯学習講師、中国茶高級評茶員。特技は卓球、イラスト。好きな食べ物は、大戸屋の魚定食。



や発酵が深く、仕上げはしっかりと揉捻（製茶の工程で茶葉をよく揉むこと）された「阿里山高山烏龍茶」。そして、清らかで透き通った香りが特徴の「凍頂烏龍茶」は、日本でもペットボトル飲料になるほど人氣が高く、ご存じの方も多いのではないのでしょうか。

また、発酵度が高めでフルーティーな風味が楽しめる世界中が認める銘茶「東方美人」。かなり深く発酵し、最高の焙煎が楽しめる「木柵鉄観音」なども、烏龍茶ファンにはお馴染みです。

中国で生産される注目の烏龍茶とは??

中国でも、とくに南部のエリア

では烏龍茶が好まれています。それは、中国最大の烏龍茶の生産地である福建省があることも大きく関係していると思います。日本が輸入している烏龍茶の大半は福建省産で、なかでも発酵度合いがやや強めの「鉄観音」は有名で、近年は「清香鉄観音」も注目されるようになってきました。

さらに、発酵&焙煎のバランスが絶妙な「黄金桂」や「毛蟹」。水仙種の茶葉を使用し、焙煎が強い「水仙種」。半発酵茶の中に、焙煎の香ばしさや後味の深さが高く評価されている「武夷岩茶」。世界遺産である武夷山で作られる岩茶として、のちのちとも有名で、「茶王」の異名を持つ中国烏龍茶の最高峰と言われる「大紅袍」など、中国にも台湾にも魅力的な烏龍茶はたくさんあります。

とくに日本では、烏龍茶はレストランやファーストフードなどでも日常的に飲まれているので、ここまですべての種類があることをご存じない方も少なくありません。この連載を機に、中国茶愛好家の方にはもちろん、まだ飲んだことがない方も、ぜひ烏龍茶の奥深い味わいと香りを楽しんでみてください。